

2014.02.13(木)  
第5回知の市場年次大会

# 韓国学 1

経済・社会から文化・歴史まで若者が語る韓国の姿

金宝藍(キム ポラム)

知の市場 学生実行委員会  
東京大学大学院 教育学研究科

## INDEX

- 01 講座企画への経緯
- 02 科目紹介
- 03 講義の主要内容
- 04 受講者の声
- 05 講義の意義及び今後の計画

# 科目紹介 - 「韓国学 1」

01

**副題：**経済・社会から文化・歴史まで若者が語る韓国の姿

02

03

04

05

**科目概要：**市民同士の草の根の交流は、お互いの間に生ずる諸々のリスクを和らげ豊かな相互理解を深めるための最も有効な手段である。近年、韓流ブームなどの影響で韓国に関する情報が日本に入ってくる機会が多くなったが、その知識はいまだ偏ったものである。隣国である韓国の実態を深く幅広く学ぶために、15名の若手講師がそれぞれの専門分野や経験について語り、多様な切り口から韓国の実像を浮かび上がらせる。講義では受講者との対話も重視する。

**連携機関：**社会技術革新学会 韓国学教育研究会

**開講機関：**お茶の水女子大学ライワールド・ウツセンター(増田研究室)

## オリエンテーション

2013/10/02

共同企画・とりまとめ講師：金宝藍、今給黎佳菜

01

02

03

04

05



### 主要内容

- ▶ 講師の紹介、名前の由来、知の市場紹介、「韓国学 1」企画の経緯と講座紹介
- ▶ 韓国についての基本知識(韓国の衣・食・住、行政単位、言語、お茶など)の解説

# 韓国の酒文化とマッコリ

2013/10/09

講師：中條朝(なかじょう はじめ)

01  
02  
03  
04  
05



## 主要内容

- ▶ 済州島生マッコリの日本への輸入・その特徴や日本における需要・普及の経緯
- ▶ その背景となる韓国の酒文化および歴史についても併せて解説。

# 韓国の政治と日韓関係

2013/10/16

講師：小池 修(こいけ おさむ)

01  
02  
03  
04  
05



## 主要内容

- ▶ 韓国の政治システムおよびその過去と現在/ 韓国の政治状況が日韓関係与える影響についての考察/ 今後の展開についての展望を議論。

# 韓国と日本の基礎科学力

2013/10/23

講師：金 恵真(きむ へじん)

- 01
- 02
- 03
- 04
- 05



## 主要内容

- ▶ 韓国の科学者の紹介/ 韓国と日本の基礎科学力の違いについて、講師の日本における研究生生活および就職経験を踏まえながら解説するとともに、背景となる両国の姿勢や支援における違いを考察。

# 韓国の伝統芸能

2013/10/30

講師：許 娟姫 (ほ よんひ)

- 01
- 02
- 03
- 04
- 05



## 主要内容

- ▶ 王宮文化を飾る宮廷舞踊から庶民に愛された民俗芸能まで幅広く取り上げ、韓国の伝統芸能全般について紹介/ 作品としての伝統芸能の見所や鑑賞方法、韓国民族が持つ独特な表現様式について解説。

# 芸能からみる日韓関係

2013/11/06

講師：佐川 純子(さがわ じゅんこ)

- 01
- 02
- 03
- 04
- 05



## 主要内容

- ▶ 韓国内の「日流」と、日本国内の「韓流」について紹介。
- ▶ 「日流」と「韓流」がもたらした日韓関係の変化とこれからについて、講師の韓国における芸能活動の経験を踏まえて解説。

# 朝鮮の革命家金玉均と日本

2013/11/13

講師：金 亮我 (きむ やんあ)

- 01
- 02
- 03
- 04
- 05



## 主要内容

- ▶ 19世紀末の朝鮮で近代的改革を目指して甲申事変を起こした金玉均が目指した近代化と、それを眺める日本人の眼差しはどのようなものであったのか、日本亡命期の彼の活動に焦点を合わせて解説。

# 古代東アジアのなかの日韓関係史

2013/11/20

講師：鄭 淳一 (じょん すんいる)

01  
02  
03  
04  
05



## 主要内容

- ▶ 古代日韓関係史を概観し、平安時代初期における交流の実態について紹介。事例として「新羅海賊事件」を取り上げ、「人の移動」という観点から、人の海上往来が活発化し始める9世紀頃の歴史を解説。「東アジア」という枠組みで日韓関係を考えることの意義についての議論。

# 日本における韓国系学校の歴史教育

2013/11/27

講師：李 璉妃(い するび)

01  
02  
03  
04  
05



## 主要内容

- ▶ 現職教師の経験をふまえて「韓国系学校」について解説。
- ▶ なかでも特殊な二重カリキュラムを設けている新宿区所在の韓国系学校に焦点を当て、同学校内で異なる歴史認識が生まれる一因としての歴史教育の現状および歴史教育の重要性について議論。

# 韓・日における近世女性の生活と伝統

2013/12/04

講師：具 知會(ぐ じふえ)

01  
02  
03  
04  
05



## 主要内容

- ▶ 女性の生活における伝統や習慣について、朝鮮時代と江戸時代を比較しながら、同時代における両国の女性像をそれぞれ解説。
- ▶ 現代に至るまでに女性に関する伝統がどのように伝承され、変化してきたのか、また理想的な女性像というものがどのように変化してきたのかについて議論。

# 韓国の途上国支援

2013/12/11

講師：姜 宇哲 (かん うちよる)

01  
02  
03  
04  
05



## 主要内容

- ▶ 被援助国から援助卒業国になり、援助国になった事例として注目されている韓国の途上国支援について解説。
- ▶ 国際社会の途上国支援に関する基本的な概念を整理した上で、韓国の途上国支援の歴史的経緯及び今後の展望。

# 韓国における障害者福祉制度と社会問題

2013/12/18

講師：金 在根(きむ じえん)

01  
02  
03  
04  
05



## 主要内容

- ▶ 障害者をめぐる福祉制度および関連する社会問題について、日韓の現状を比較しながら解説し、「障害」のとらえ方や今後の方策について議論。
- ▶ 韓国の90年代における障害者運動の映像視聴

# 韓国における多文化家族の現状と課題

2013/01/08

講師：郭 珍榮(かく じんよん)

01  
02  
03  
04  
05



## 主要内容

- ▶ 国際結婚によって一つの家族の中に複数の文化を持つ形態が増加している現況をふまえ、この「多文化家族」の抱える悩みと必要な支援について解説し、韓国における女性結婚移民者支援の拠点になっている「住民自治センター」について紹介。
- ▶ 「多文化家族」へのさまざまなとらえ方や展望についての議論。

# 韓国の兵役と宗教

2013/01/15

講師：金 大栄(きむ でよん)

- 01
- 02
- 03
- 04
- 05



## 主要内容

- ▶ 韓国の現代社会の中から日本にはなじみのない兵役と宗教という2つの課題を取り上げ、それぞれ日本とはどのように違うのか、なぜ違うのか、そしてそれらがどのような違いをもたしているのかについて考察し、議論。

# 交流討論会

2013/01/22

共同企画・とりまとめ講師：金宝藍、今給黎佳菜

- 01
- 02
- 03
- 04
- 05



## 主要内容

- ▶ 韓国文化の粋である韓国料理を味わいながら意見交換を行うとともに、それぞれが理解した韓国の姿を確認しながら、本科目のまとめとする。

## 交流討論会

01

02

03

04

05



- ▶ 毎回行われる取りまとめ講師と講師との交流討論会  
講義内容は進め方、雰囲気、受講者からの質問や意見などに対するフィードバック

## 受講者の声

01

02

03

04

05

- ▶ 途上国支援という普段は関心を持つことが少ない話題について、非常に丁寧に、素人にもわかりやすく説明して下さいありがとうございました。講師のような方が韓日の外交の架け橋になってもらえたらと思います。
- ▶ 自分の卒業論文のテーマの時代とリンクしていて、日本・中国と比較しながら講義を聴くことができ良かったです。今年3月に、慶州へ歴史散策に行きましたが、この講義を受けてから行けばもっと理解が深まったのに…と思いました。また慶州へ行く事があれば、今回の講義を思い出ししながら、歴史散策をしたいと考えています。朝鮮古代史にとっても興味が広がり、今後自分でも学習していきたいと思いました。
- ▶ 講義では、韓国語および日本語が書かれている教科書など、珍しい資料もみせていただき感謝しています…今回の講義を受けて、両国の友好には、まず、相手国および自国がどのような教育をしているのかを、冷静に比較し、理解しなくてはいいと思います。

## 受講者の声

01

➤ 韓国に留学した経験、俳優活動を通じての韓国に対する感想などとても参考になりました。

02

➤ なによりも良かったのが、interactiveな講座であったこと。

03

04

05

➤ 初めて「知の市場」を受講しましたが、講師の皆さんの熱心な授業を受けることができたことに感謝いたします。ちょうど9月末に40年近く勤めた職場を定年退職した後で、1週間に1回のキャンパス通いはとても新鮮でした。外国語を勉強し始めれば、言葉の背景に関心を持つようになるのは自然なことです。しかし、隣国にもかかわらず、あまりにも知らないことが多いのには自分でも驚きました。そんな時に、韓国文化院のホームページで、この連続講座に出会えたのは、何か「縁」のようなものを感じます。「韓国学 1」というからには、きっと「2」の予定もあるのだろうと勝手に想像しています。

## 受講者の声

01

02

03

04

05

➤ 韓国も日本と同様の課題を持つ社会であることを強く印象付けられました。同じような社会問題を抱えているということは、お互いに問題を解決する方策について参考となる話題提供や議論ができるということでもあります。私たちは、その点にこそ注目し、共通の問題意識を持つ隣国として話し合う機会をもっとたくさん持つべきです。外交リスクとなるような問題を話し合うことも重要ですが、まずは身近な他者として接することこそ重要ではないでしょうか。今回受講した中で、私が個人的に印象深かった講義は、いずれも今後、共同研究や共同作業などにより日韓の間に信頼を架橋する可能性が見えてきたものです…

➤ 韓国と日本で、誤解や摩擦が多いのは、文化、慣習などが似ているため、より深くお互いを理解しようとする努力が少なく、自国の「常識」を安易に相手国にあてはめてしまうからではないでしょうか？ 相手が西欧の国であれば、相手は、文化、思想が全く違い、常識も違うのだからとの前提に、対応しようとするのですが、韓国と日本では、お互い近隣であるが故の甘えた考えがあるように思います。お互い、相手を冷静に、客観的に深く理解することが、友好の基礎条件だと思います…

## 「韓国学 1」の意義及び今後の計画

- 01 ▶ 若者の講師と社会人の受講生の相互学びの場
- 02 ▶ 日本人と韓国人がお互いに虚心坦懐になんでも言える場となり、信頼関係の構築
- 03 ▶ 偏見や先入観を除いて、お互いにより正しい理解を図る
- 04 ▶ 学生委員会の主導的な力の可能性の提示
- 05 ▶ ぜひ「韓国学 2」をつくってくれというお声にこたえ、「韓国学 2」は、さらに発展させたカリキュラムを企画



ありがとうございます